



図1 韓国の年度別建築物着工状況 (出典：韓国・国土建設部)

近年の韓国で発生した地震  
 韓国気象庁によると、朝鮮半島と周辺の沖合で発生したM2以上の地震は、2016年に252回、2017年に223回、2018年に115回でした。これは韓国観測史上最多3で、今後大きめの規模の地震が生じる可能性を韓国気象庁は排除していません。  
 近年地震規模としては最大級の地震として、2016年9月に慶州(キョンジュ)

韓国の住宅は集合住宅が多く、RC造やS造が大半を占め、木造の割合は数%です(図1)。木造建築の着工数は2006年頃より徐々に増加していて、近年では1万戸を超えています。その多くは枠組壁工法(2×4工法)です。韓屋の建設は極僅かで非常に高価で憧れがあります。「木が見える」木造住宅を取得したい志向があるため、富裕層を中心に木造軸組構法住宅も徐々に増えています。

韓国(など)への木材輸出促進に対する施策を講じています。そこで、筆者の建築構造からの韓国へのアプローチについてお話しします。

2017年9月に日本の企業が物流センターとプレカット工場を釜山に、2018年秋に韓国の企業がプレカット工場を始動しました。このようにプレカット施設が整備され、韓国では日本式軸組構法が普及する素地が整い始めてい

これらの震災は韓国建築施策に大きな変化をもたらし、2017年12月、住宅等の低層建築物(2階建て以下木造住宅)においても「構造安全及び耐震設計確認書」の提出が必要となりました。徐々に増加してきた木造住宅の着工戸数が2018年に減少したのは、この構造に関する申請書提出の義務の影響であると考えられます。

韓国の木造建築をとりまく現状  
 これらの震災は韓国建築施策に大きな変化をもたらし、2017年12月、住宅等の低層建築物(2階建て以下木造住宅)においても「構造安全及び耐震設計確認書」の提出が必要となりました。徐々に増加してきた木造住宅の着工戸数が2018年に減少したのは、この構造に関する申請書提出の義務の影響であると

地震M5.8、2017年11月に浦項(ポハン)地震M5.4が発生しました。いずれも震度4程度(気象庁震度階級の揺れで、慶州地震で6百棟規模で住宅被害が生じ、月城原子力発電所が稼働を停止しました。浦項地震で2千棟規模で住宅の被害、5百棟規模で公共施設の被害が生じました。

森林文化アカデミーの役割は、実務者への技術支援と、韓国のビジネスパートナーの発掘・育成になります。

今後、韓国へ岐阜産材を展開していくために、①適した品質の製品と設計技術のセット、②部材の規格化による安定供給、③設計資料や仕様の明確化、④多様性(韓屋)を可能にする高度な性能設計技術、⑤長期的・継続的な産学官民連携、特に民への展開、⑥地域性を捉えた技術提案、⑦信頼のおける韓国のビジネスパートナーによるビジネス展開、などが必要

韓国関連法令の読解、韓国実務者向け研修、韓国向け岐阜産材横架材スパンの作成、韓国向け岐阜産材接合部構造実験計画の作成など、岐阜県内業者と連携して実施しています。



写真1 県産材利用住宅

岐阜産材の展開へ向けて  
 まずは、「構造安全及び耐震設計確認書」ツールを作成し、2019年1月に韓国で研修を実施しました。その後、建築確認がスムーズになり、岐阜産材利用も進み始めています(写真1)。